



# “さくらの会”便り

発行責任者	会 長 田中 明
編集責任者	事務局長 上原 栄
Tel.0773-22-7859	

ーリラックスできて、はげまし合うところ、勇気を与えられるところー

## 新たな一歩に向けて 病院から地域を繋ぐ

10月7日、「第3回病院から地域を繋ぐ」が市民交流プラザふくちやまで、「さくらの会」の主催で開かれました。

**第1部** 第1部の講演会は、座長を本多先生として、福知山市民病院から「当院での高次脳機能障害への取り組み」、福知山市障害者生活支援センター「青空」から「福知山市の現状について」、京都府保健福祉部から「京都府リハビリテーション支援センター（北部）の活動について」、福知山市から「まず一声！～障害福祉サービスへのつなげ方～」の講演がありました。

**第2部** 第2部は、「当事者の声を聞いて連携を模索する」と題して、本多先生の司会で当事者・家族の「受傷してから体験」を聞きました。多職種連携ワークショップを開く予定でしたが、時間の関係でできませんでした。



また第1部・第2部を通しての質問がありました。

（問）「高次脳機能障害の家族の回復の見込みについての問いかけにどのように対応されているのか」

→（答）専門職と相談しながら見込みについて対応している。

（問）「グループワーク等の開催とあるが、

京都府北部リハビリ支援センターでやってもらえるのか？」

→（答）生活訓練・グループワーク・交流会の実施を前提に前向きに考えて行きたい。

（問）「リーダーシップを誰が持つのか？」  
「支援について、病院の医師やセラピストの理解が得られるのか？」

→（答：感想）▼「医師や看護師数が足りないといわれるなかでも、このような講習会等が開かれるなど、少しずつ広がっていると感じている。病院としても、関係する講演会や講習会に職員も含め、今後とも参加できるようにしていきたい。」などの意見交換がされました。

地域におけるそれぞれの分野から、実態や取り組みも話されました。

参加者の皆さんがそれぞれに、多くの問題点に気づき、次のステップにつながる充実した講演会でした。



### 感想

（アンケートより）

- 福祉施設において、高次脳機能障害について、理解されていないので、働いておられる方にわかってほしい。

## 感想

(アンケートより)

- 中丹地域の支援、相談の場を把握することが出来ました。また、高次脳機能障害についての理解を深め、専門外の職員にも周知できるようにしたいです。
- グループ訓練は、大事だと思います。あれば参加したい。色々な取り組みや、支援について詳しく教えてもらえたらうれしい。
- 京都北部地域の現状と連携の講演会について、具体的な話で良かった。高次脳機能障害の方々と交流する機会が多い方が良いと思う。
- 当事者ご本人と家族の話を聞かせて頂いたのは初めてでした。熱意とご努力に感動しました。その反面、これだけ頑張ってくれる家族がない人はどうなるのかと思いました。今回のように、当事者さんの話を聞く機会を今後も継続して欲しいと思いました。
- OTの先生よりの知見を増やすことができ、今後の臨床力の向上につなげたいと思います。
- 受傷の時から出来るだけ早期に、高次脳機能障害の評価をして、アセスメント、適正な支援に繋ぐことが必要であると感じた。
- 病院で、月に3・4人の人が、高次脳機能障害の人が発生しているということは驚きでした。まずは、北部の実態と分析が必要と感じた。

## お知らせ

長年「さくらの会」が要望していた高次脳機能障害の拠点として、9月20日、京都府北部リハビリテーション支援センターが開設されました。

### 京都府北部リハビリテーション支援センター

▽開設場所 京都府中丹東保健所内  
(舞鶴市字倉谷)

▽電話相談 月・木曜日  
午前9時～12時  
(祝日除く) 午後1時～5時

▽来所相談 完全予約制  
月曜午後1時～4時(祝日除く)

▽相談専用電話・来所予約連絡先  
0773-75-7556

また、舞鶴赤十字病院において、高次脳機能障害の専門外来が設けられた。

▽開設場所 舞鶴赤十字病院  
(舞鶴市字倉谷)

▽問合せ先：0773-75-4301  
(地域医療連携課)

▽診察日  
木曜日(祝日除く完全予約制)

## カラオケ交流会

(日時) 12月16日(日)  
午後1:30～16:30  
(場所) まねきねこ  
(綾部市大島町)



### 【編集後記】

▼「第3回病院から地域を繋ぐ」は大変有意義でした。もっと多くの方に参加して聞いて頂きたかったです。

▼今回の参加者から廻りに呼びかけの輪が広がることを望んでいます。

▼また、北部リハビリテーション支援センターに、大きな期待をしています。関係機関の連携を密にして、それぞれが持っている知識・力をひとつにできるような本腰を入れて進めていただきたいと思います。

▼みなさんのご協力をお願いします。

